

多様な進路を支えるキャリア教育

富岳館の一年 vol.4 仕事ウォッチング

小規模でも実行し成果を示していく

「生徒のためになると思ったら、まず始めてみる」という行動力で、体験学習を中心に多くの進路学習を軌道に乗せてきた静岡県立富岳館高校。今号取り上げる「仕事ウォッチング」も、生徒に仕事に関するイメージを持たせることに効果を上げている。同校の姿勢をよく表している取り組みとして、実施からその後の情報共有までを紹介したい。

働く素晴らしさ、責任感、会社組織。 社会人を間近に観察して学ぶ

富岳館高校では昨年度より、進路学習の一環として仕事ウォッチングを導入した。これは仕事をする1人の社会人のすぐそばで、生徒がその仕事ぶりを約2時間にわたって文字通りウォッチングするというもの。一般的には「ジョブシャドウイング」という名前で知られている。さまざまな業務を行っている比較的大きな規模の企業に協力してもらい、参加する生徒は、例えば総務、経理、営業など各部署に分かれウォッチングを体験。その後、実際に自分が見たこと、感じたことを各々が持ち寄り、相手企業の人たちも交えてミーティングするのである(右図参照)。

ただウォッチングするという点でも、体験中心のインターンシップとは大きく異なる。インターンシップでは経験しにくい、管理職の仕事の間近で見ることができるし、組織というもの、社会というものを理解しやすい。また、数時間にわたって一人と密に接するため、その人の働くことに対する姿勢、考え方などにも触れることができる。

仕事ウォッチングを企画・導入した鈴木映司先生(前進路課長)は言う。「『こんな仕事もあるよ』ではなく『仕事とはこういうものだ』』ということを多少でも知ってもらい、勤労感を育てるのが目的です。また、組織のリレーションをのぞいてもらい、チームワークの大切さなども学んでほしいと思っています」。進路課・総合学科事務局長の佐野有先生も続ける。「仕事の素晴らしさや仕事への責任など、授業で

はなかなか教えられないことを学んでくれていると思います。また、社会人が仕事をしている姿を見るだけで、なぜ服装や言葉遣いを正しくすることが大切なのか、学校の勉強がどう社会で役立つかなどに気づくこともあるようです」

一方で協力企業を探すのは簡単ではない。インターンシップはひとつの部署で全員を受け入れてもらえることもあるが、基本社会人1人に対し、生徒が1人または数人付く仕事ウォッチングの場合、それが難しいからだ。ただし、企業側の感想からも「刺激になった」「目標を再認識できた」などの声が寄せられており、今後も両方にメリットがあることを伝え、受け入れ企業を開拓していきたいという。

仕事ウォッチングの流れと生徒の感想(2005年の場合)

9月	生徒への説明、参加者募集
10月11日	事前学習、概要説明冊子配布
11月01日	事前学習、企業理解
11月08日	事前学習、職場理解
11月14日	仕事ウォッチング実施
9時	企業に到着
10時～12時	仕事ウォッチング(5チームに分かれて見学)
12時～13時	昼食をとりながらミーティング
13時～14時過ぎ	体験のシェアリング
11月15日	事後指導、まとめ
11月22日	感想、礼状、まとめ作成

生徒の感想(大切に感じたこと)

自らの仕事に誇りと責任がある 仕事に対して前向きになること
 仕事というのは生き甲斐になるということを発見した 聞く力
 時間をどれだけ有効に使うか 必要なさうなこともいくつかは役立つ
 仕事は一人ひとりがつながっている 学ぶということに終わりは無い
 学校で学んでいる知識がとても役に立っている 人間性
 相手の目を見て、意見を聞き、笑顔で話をする
 身だしなみをしっかりして、元氣よく生活する
 服装にだらしない、かっこう悪くて仕事にならない

生徒のためになることなら まずは少人数でも行動に移す

この仕事ウォッチングは、昨年度、鈴木先生を中心に社会科学系系列担当者が同系列の2年生の中から希望者を募り、小規模で行った。参加者は30人、受け入れ企業は1社。実質、鈴木先生ひとりで企画・実行したものだ。「何でもそうですが、大がかりにやろうとするとできなくなります。まずは責任がとれる範囲の小規模で始めるのがいいと思います」と鈴木先生。そして今年度は、あくまでも希望者だけに限定はするものの系列の枠を取り除いて募集し、2年生全体を対象として実施する。一方、そうなると、どの時間を注意事項の説明などの事前準備に使うのが問題になるが、通称「金7（金曜日の7限）を充てた。これは定例会議や行事などが多く、なかなか教員が話し合ったり、小規模な行事ができないという悩みから生み出された時間。金7には定例会議などは入れず、進路に関する事に限らず「生徒のためになることにならどんなことにも使える時間」と定義している。何もなければ放課後という時間なので、仕事ウォッチングや専門学校等による出前講座・体験講座など、希望者のみの行事が行いやすいのだ。

些細な情報でも発信し 効果を知ってもらう

活動実施後は教員間で情報を共有。仕事ウォッチングについては、進路通信(左下『ENDLESS DREAMER』

ENDLESS DREAMER 2005



参照)で経緯や当日の様子を説明。効果を知ってもらうために、できるだけ多く生徒の感想も掲載した。これに限らず、1人または数人の教師によって小規模に行った取り組みについては、必ず全員の教師や在校生、または保護者などに情報を発信。会議の議事録は翌日配布し、1~2週間に一度の割合で進路通信を発行している。

「クラスとは別に系列があるという複雑な組織なので、情報はこまめに共有しています」と佐野先生。「聞いていない、知らないをなくすために、どんな些細なことでも情報発信します」と鈴木先生。何もわからないうちから一緒にやるのではなく、まずは自分がやり、見てもらって、一緒にやってもらうという3年単位で考えることで、指導や行事を定着させていくという手法をとっている。

【Column】“産社”で何を学ぶか 12・1・2・3月

本当の富岳館生としてスタート

産社の前半は、学年またはクラス単位の授業が主となるが、系列が決定し立志式が終わってからは系列ごとに分かれての授業となる。ここからが富岳館生としての本当のスタートだ。

基本的に授業の内容は各系列の担当者に任せられるが、生徒一人ひとりがライフプランを作成するのは必須事項。それぞれのプランを系列内で発表させ、優秀なものは学年での発表となる。これには各系列内で他の生徒を引っ張っていくリーダーを育てる狙いも。進路理解が進んでいる生徒に対しては、春休みに自主的なインターンシップを促す。

産社のカリキュラム

12月	・ライフプラン1 ・産社アンケート
1月	・ライフプラン2 ・系列別学習(働くこと、学ぶこと、生き方を考える体験や講演)
2月	・系列別学習 ・ライフプラン3 ・ライフプラン4
3月	・意見発表(各系列から代表) ・産社アンケート

> > School Data

生徒数 / 699人(男子324人、女子375人) 総合学科 20学級
進路状況(2005年度) / 大短進学31.0%、専各進学31.0%、就職37.0%、その他1.0%

静岡県富士宮市弓沢町732

TEL 0544-27-3205

URL <http://www.shizuoka-c.ed.jp/fugakukan-h/>